

第45号

2017年12月発行

【発行元】
港区芝地区総合支所協働推進課
発行部数30,000部

芝地区 地域情報誌

『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、さまざまな行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

お芝の 老舗

創業200年以上

「むらまつ酒商類」

「むらまつ酒商類」は第一京浜沿いの日比谷神社の横にあり、江戸時代初期からこの地「露月町一番地」で酒商を営んでいます。7代目の村松仙康さんとお母さまの琺央子さんにお話をうかがいました。

江戸時代から続く酒商「むらまつ酒商類」

震災や戦災のため、資料の数々は焼けてしまいましたが、国立国会図書館に、酒商として村松家を受け継ぐ「村松仙之助」の資料があります。「仙之助は、奉仕活動や社会事業に大変貢献し、区会議員、府会議員を務め、家族は露月町で酒商を営み、一家円満である」と記されています。

「仙」を継ぐ者

社名は「株式会社 村松仙翁」。仙台藩の表屋敷そばの場所に店を構えたため、代々、嫡男の名前に「仙」の字をつけています。

その昔は虎ノ門金刀比羅宮で開催した相撲の力士に酒樽を届けたり、戦前は銀座の資生堂の食堂や住友銀行に酒類を納めていました。戦後、新橋が焼け野原になり、酒類の統制がされると、仙康さんの祖父、春雄(縁組)は木材屋を営んだこともありました。闇市の後、新橋駅前ビルが建設され、再び酒屋として忙しくなりました。たくさんの飲食店からお酒の注文が入り、当時は各店舗の鍵を預かり、お酒を配達していました。

仙康さんの父、先代の仙一郎は、洋酒メーカーの「店頭陳列コンテスト」でいつも特賞を取っていました。亡くなった今も、そのことを覚えているお客さまが訪れ、懐かしい思い出を語ってくれます。街と共に歩んできたからこそ得られるファミリーヒストリーです。



村松仙康さんとお母さまの琺央子さん



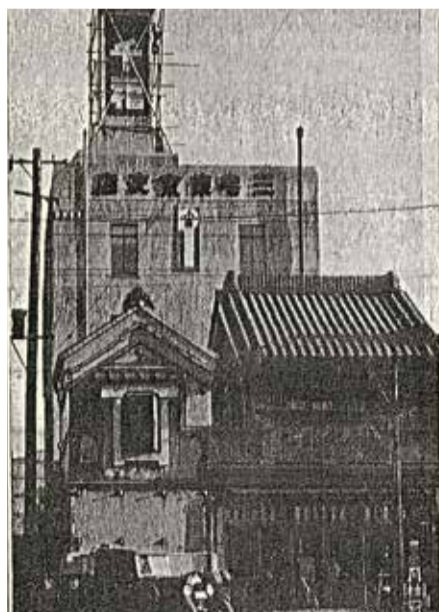
洒落で「や」の逆さは「さかや=酒屋」

街と人と共に、新たな老舗の歩み

バブル崩壊とともに、街も人も変わりました。再開発が進み、飲み屋街がオフィスビルへと変わりました。新橋の狸小路や笹小路にあった飲食店が消えていきました。土地区画整理により、第一京浜や新虎通りを境に、街は分断されます。人の流れが変わり、街も成長しました。

「むらまつ酒商類」は、酒商の機能だけでなく、オフィス街の商店として業務改革を強いられます。その一つは、お弁当の販売です。さらに、これまで顧客の要望に合わせて商品を揃えていたビジネススタイルを変えます。これからはお店がお客さまに薦められるお酒を提供していくと、3年前より有料試飲会「名和岳役の会」を開催。「むらまつ酒商類」が自信をもって薦めする日本酒を、お客さまに猪口で有料試飲していただきます。薦めるにあたり、これまで以上に多くの蔵元と付き合うことが重要になりました。また有料試飲は、一升瓶(1.8ℓ)や四合瓶(720ml)を猪口(60ml)一杯でリーズナブルな価格で提供。ゆえにお客さまから人気となり、当初は2か月に一度の開催でしたが、毎月第3金曜日の17時~21時に開催するようになりました。

試飲会の日は、次の世代を担う子どもたちも一



アサヒグラフ別冊に掲載された戦前の建物の様子。店内には様々な銘柄の日本酒が並び、琺央子さんの親族のブランド



昭和3年(1928)当時の店構え



杉玉が飾られた店舗入り口

緒に店の手伝いを行います。イベント開催のスケジュールはホームページやFacebookで発信します。ネット時代のビジネスモデルを取り入れながらも、昔から変わらぬファミリービジネスを続けています。

「東京2020オリンピック・パラリンピックの時には、この街に選手があふれてくれるといいですね。江戸時代の立ち飲みについても勉強したいです。『老舗』のプレッシャーを感じるより、楽しみながら、先祖の思いを受け継ぎ、自分も次の世代へ継承する体制を築いています。多種多様な時代になりました。いろいろなアプローチができる時代です。それでも酒屋は地域あつての商売という基本を大切にしています。人との繋がりほどの時代も変わりません。街に人に支えられて商売が成り立っていると肝に銘じています」と熱く語ってくださいました。

時代が変わっても、「仙」を継ぐ家族の強い絆が、街を未来へとつないでいくのでしょうか。7代目の仙康さんも、「新橋青年しんこう会」、地域情報サイトの「新橋ねっと」(<http://www.shinbashi.net/>)など新橋の若手と共に、地域活動に力を注いでいます。

兄弟姉妹の家族で支える「むらまつ酒商類」は、仙之助の経営哲学を、現代まで継承しています。

取材：森明/早川由紀
文・写真：早川由紀
参考文献：半生を社会事業に捧げた人々
(慶福会 国会図書館)
アサヒグラフ別冊

Information

むらまつ酒商類
東新橋 2-2-10 村松ビル 1階
TEL 03-3431-8835

東京プリンスホテル REBORN 2017

1964年
9月生まれ

伝統を未来へつなぐ再生



芝公園に開業

東京プリンスホテルの誕生は、前回の東京オリンピック直前のことだ。

「当時はハイソな人々が集まる東京の中心的地な場所で、海外の一流ブランド品を扱う“PISA”のショッピングバッグを持つことは、トレンドだったそうです。義父に聞いたのですが(笑)」と話してくれたのは、東京プリンスホテルの総支配人の石川学さん。

今年4月1日にリニューアル・オープン!

昭和39年(1964)9月1日の開業から52年が経ち、お客さまの幅広いニーズに応え、更なる安全安心をと、伝統を継承しつつ耐震補強を含めた改修工事を、昨年4月より1年間行った。

3月30日に行われたセレモニーでは、芝の「め組」の木遣りで始まり、ゲストの武井区長らが花びらを撒いて行くと、スクリーンとなったホテル壁面には、桜の木が満開へと変わり、東京プリンスホテルの未来への展望をイメージしたプロジェクトマッピングが映し出された。

映像の後半は、東京の街を宴会場のシンボルである「鳳凰」が駆けめぐり、終りにつれて東京タ

ワー全体がライトアップされ、素晴らしい景観にため息ももれた。

館内は「貴婦人の復活」をキーワードに、西歐的装飾と東京タワーを思わせる赤がアクセントに使われ、ロビーはシックでありながら、開業当時の華やかさを思わせる。

「以前のプリンスホテルは菊をデザインしたマークを使用していました。今は変わりましたが、昔の菊のマークを残している場所もあるので、ぜひ探してみてくださいね!」と、茶目っ気たっぷりに石川さんは教えてくれた。

客室は3つのフロアカテゴリーに分かれ、ビジネスなど様々なシーンに対応でき、クラブフロア宿泊者用のラウンジも新設された。

東京タワーや増上寺を借景とする環境を活かし、芝公園の緑の中、東京タワーを見上げて過ごせる「カフェ&バー タワービューテラス」も誕生し、話題の「インスタ映え」スポットになりそうだ。

年末年始は地元で!

「芝公園エリアの2つのプリンスホテルでは、『贈り物』をテーマにクリスマスケーキを販売しています。本物の革のバッグのようなチョコレート細工に、ベリーやマカロンなどを詰めたケーキ

『プール マ シェル』や、ホテルエと呼ばれる女性スタッフ達が職種の垣根を超え、様々な企画を生み出す『TOKYO HONEY PROJECT』が考案したケーキ『エトワール ノエル』は、芝公園をイメージしています。ぜひ大切な人と召し上がって頂きたいです」と話してくれたのは、広報担当の高木聖香さんだ。

クリスマス・ディナーショーは、真矢ミキさんが初開催。大晦日にはザ・プリンスパークタワー東京のプリンス芝公園で、東京タワーの下、カウントダウンイベントも開催される。

「ホテルは文化の発信地でもあるので、常に季節感を大切に、お客さまをおもてなしています。今後は国内外の観光客が増え、ホテルにとっては大きなチャンスを迎えますが、お近くのかたにも、リニューアルした東京プリンスホテル、そしてザ・プリンス パークタワー東京をご利用頂けたら嬉しいです!」と石川さんは話してくれた。

地元のホテルで、贅沢なくつろぎのひと時を!

取材協力: ザ・プリンス パークタワー東京、
東京プリンスホテル
総支配人 石川 学
広報担当 高木 聖香
写真提供: 東京プリンスホテル
取材・文: 森田 友子

Information

東京プリンスホテル
芝公園 3-3-1
TEL 03-3432-1111 (代表)
<http://www.princehotels.co.jp/tokyo/>



総支配人 石川 学さん 広報担当 高木 聖香さん



カフェ&バー タワービューテラス



芝公園をイメージした「エトワール ノエル」



華やかなバッグのケーキ「プール マ シェル」

52年の歴史 「新橋駅前ビル」をたずねて

1966年
8月生まれ

JR新橋駅の汐留側に向かうと9階建ての大きなビルがあります。

向かって左が「新橋駅前ビル1号館」右が「新橋駅前ビル2号館」です。

1号館の前には大きなタヌキの置物が鎮座して、地階、1階、2階には100軒以上の昭和の雰囲気醸し出している飲食店が並んでいます。3階以上はオフィスビルになっている築52年の建物です。

サラリーマンのワンダーランド

同ビル管理組合理事長・川田圭子さんにお話を伺いました。

「以前この地には『狸小路』と呼ばれる飲み屋や銀行、文具店その他さまざまな飲食店街がありました。市街地改造事業の第一号ビルとして昭和41年(1966)に竣工しました。今こそ、周囲は汐留の高層ビルに囲まれているのですが、当時は超モダンなビルでテナントの希望者が絶えませんでした。」

同ビルの飲食街は「狸小路」の名残りとして、小さな飲み屋や路地裏風の通りもあり、往時を彷彿

とさせる雰囲気が漂っていて、幅広い年代のお客さままで連日賑わっています。シニアには郷愁をそえられる空間であり、若者の目にはそれが異空間の場所と映るようです。半世紀以上もの間、多くの人々に支持され続けている理由はそんなところにあるようです。

ビル開業当時から営業を続けている気さくなバーや飲食店も健在です。

老舗の台湾料理

そのうちの1号館2階の「ビーフン東」を訪ねました。

創業は昭和26年(1951)。60年以上前に新橋駅前前開店し、店主の東俊治さんは3代目。「新橋駅前ビル」が完成した当初から入居し営業を続けている店舗です。

36席ある店内は、お昼時ともなれば5回転する日もあるという人気店。メインの昼メニューは薄い塩味のビーフンと柔らかい豚の角煮が入った醤油味のPARTY(チマキ)のみ。この組み合わせは絶妙で、食べごたえは充分です。早朝から仕込みに入り一日200個以上作っている人気商品のPARTYは、創業以来、味を変えていないのも人気の秘密です。お中元やお歳暮の時期には、一日に400個以上も作って地方発送もしています。お客は90歳代から若者まで幅広い世代に受けています。3代続けて通ってくるファンも少なくありません。

「また来たいと思ってもらえるよう、誠心誠意毎日作っている」という店主の笑顔が印象的でした。



お祖父様が撮った開発前の写真を手に説明される川田理事長



文具店、雑貨店その他さまざまな飲食店、飲み屋が並んだ「狸小路」



駅前ビルができる前の「ビーフン東」。当時は「阿津満」の字を充てていた



汐留の高いビル群を背に、いまなお威風堂々の新橋駅前ビル



昭和41年(1966)のオープンのころ。高い建物はほとんどない



左がスープ付き五日ビーフン、右がPARTY。



毎朝早朝から仕込みに入る「ビーフン東」の店主、東俊治さん

取材: 千葉 みな子、伊藤 早苗
文: 伊藤 早苗
写真: 森田 友子
写真協力: 川田 圭子理事長、ビーフン東

Information

新橋駅前ビル 1号館 新橋 2-20-15
新橋駅前ビル 2号館 新橋 2-21-1
新橋駅前ビル商店会
<http://www.shinbashi.net/13/>

みどころたっぷり NHK放送博物館



「アー、アー、聞こえますか。JOAK, JOAK, こちらは東京放送局…」

これは日本初のラジオ放送の第一声です。NHKラジオ第一放送の前身である東京放送局は、大正14年(1925)3月に芝浦の仮放送所から試験放送を実施し、7月に愛宕山から本放送を開始しました。

昭和31年(1956)、NHK放送博物館は「放送のふるさと」と呼ばれる愛宕山に、世界初の



「ヒロインたちの肖像
連続テレビ小説ポスター展」
昭和36年(1961)から始まった連続テレビ小説の歴史を振り返り、3階企画展示室で2018年1月28日まで

放送専門博物館として開館しました。そして、放送開始90年を記念して平成28年(2016)に全面リニューアル。新しい展示では「放送の過去・現在・未来」を体験することができ、大人から子どもまで幅広い世代が楽しめる内容になっています。

入口の「ウエルカムゾーン」では、放送の歴史を屏風風イラストで紹介する「放送歴史絵図」と、ショーウィンドーのように展示された数々の放送機器が出迎えてくれます。

中2階の「愛宕山8Kシアター」では、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に併せて、本格的な普及を目指している8Kスーパーハイビジョンの試験映像を、200インチの大型スクリーンと22.2マルチチャンネル音響システムで体感できます。また「放送体験スタジオ」ではニュースキャスターや気象予報士になったり、まるで自分がクジラの泳ぐ海の中のようなバーチャル映像を体験できたりします。

2階には、朝の連続テレビ小説や大河ドラマ



を始めとする「テレビドラマの世界」、オリンピックの名シーンや放送技術の変遷を紹介するコーナー。「NHKと音楽」では懐かしい音楽番組や、紅白歌合戦など。歴代の人形劇や「おかあさんといっしょ」の人気キャラクターを展示するコーナー。つい時間を忘れてしまいます。

3階は放送専門博物館の真骨頂と言うべきヒストリーゾーン。貴重な放送の歴史を、映像や漫画でわかりやすく解説しています。昭和天皇の「玉音盤」も見どころのひとつです。

4階の「番組公開ライブラリー」では、NHKが放送した10,000本を超える番組を自由に視聴することができます。

NHK放送博物館では、様々な企画展示も実施しています。ご家族やお友達と一緒に、デートにも最適なスポットです。



取材・文・写真：菊池 弓可

Information

NHK 放送博物館 (入館料無料)
毎週月曜日休館
開館時間：午前9時半～午後4時半
愛宕 2-1-1
TEL 03-5400-6900
<http://www.nhk.or.jp/museum/>

新たな観光スポットへ!

三田商店街×東京タワーで タワーライトストリート・ライトアップ

この度「三田商店街振興組合」が認知度アップのため、区の助成を活用した「商店街変身戦略プログラム」として、東京タワーとコラボレートした街路灯のライティングを開始しました。

56基の街路灯には球状のライトが設置され、7色に光るLEDライトは東京タワーのライトアップに合わせて変化するようプログラミングされています。

10月21日(土)にはライトアップイベントが行われました。雨天により点灯式は慶應義塾大学東門会場で実施されましたが、武井区長、日本電波塔株式会社の吉成取締役執行役員はじめ、近隣商店街、町会・自治会の皆さんが駆け付け祝辞を述べられたほか、ストリート命名者も立ち会いました。

その後は「全力少女R」や「慶応チアリーディング部」のパフォーマンス、チリ大使館によるステージや十二単の着付けの実演による日本文化の紹介など、盛り沢山のイベントに会場は沸きました。

夜、上から見る三田通りは、その姿がもうひとつの東京タワーともいわれていますが、このライトアップにより、より華やぎを増しました。

11月25日から12月25日までの商店街の歳末イベント期間中は、10月21日と同じく7色が1分ごとに变化するライトアップが予定されています。

東京タワーの協力を得て、三田商店街は新たな観光スポットとして賑わうことでしょう。

取材協力：三田商店街振興組合 理事長 山本 和美
取材・文：森田 友子



和やかな雰囲気の中で行われた点灯式



三田商店街振興組合理事長である山本和美さん



東京タワーから見える三田通り



今回は、虎ノ門いきいきプラザで開催中の講座、催しをご紹介します。

取材・写真：米原 剛

手芸の教室

ビーズアクセサリー、ヨーロッパ刺繍、羊毛フェルト手芸、素敵にハンドメイドなどの手芸講座も適宜開かれています。詳しくは虎ノ門いきいきプラザまで。



朝の歌声広場

毎月2回、スタッフと利用者が一緒になって懐メロを歌う広場を開催しています。始めた経緯を聞いたところ「歌を歌うことは好きだけれど人前で歌うのは苦手」「歌に自信がなくても、気軽に参加ができる教室を作ってほしい」と声があったから。参加者からは「カラオケ教室には抵抗があったが、これなら気軽に参加できる」「歌詞を間違っても思いっきり歌うことができる」と好評でした。今後は懐メロに限らず、最近流行の曲も取り入れていく予定とのこと。みなさんで楽しく歌いませんか。



昭和歌謡コンサート

懐かしい昭和歌謡を12人のメンバー「思い出チュウステー」の伴奏で歌う集いです。2012年から毎年2回行われてきました。毎回多くのお客さまが来館され、1階のカフェだけでなくエントランスまで満席になることがあります。また、23回を数えるコンサートは週末に開催され、このほか、フルートとピアノの映画音楽、ハンドベルなど、肌で音楽を楽しませてくれます。



トレーニングルーム

65歳以上の区民であれば、無料で気軽に運動ができるスペースが用意され、スタッフが利用方法や運動のアドバイスを適宜行ってくれます。その他にも「とらトレ体操教室」「予防改善エクササイズ」「肩腰スッキリエクササイズ」とさまざまなプログラムが開催されています。一人ではなかなか続けることができない運動も、皆で行えば楽しく継続して続けることができるもの。トレーニングルームを利用して、週1、2回の運動習慣をつくってみるのはいかがでしょうか。

※トレーニングルームのプログラムは虎ノ門いきいきプラザだけでなく、三田いきいきプラザ、神明いきいきプラザにもあります。利用方法は各いきいきプラザにお問い合わせ下さい。



Information

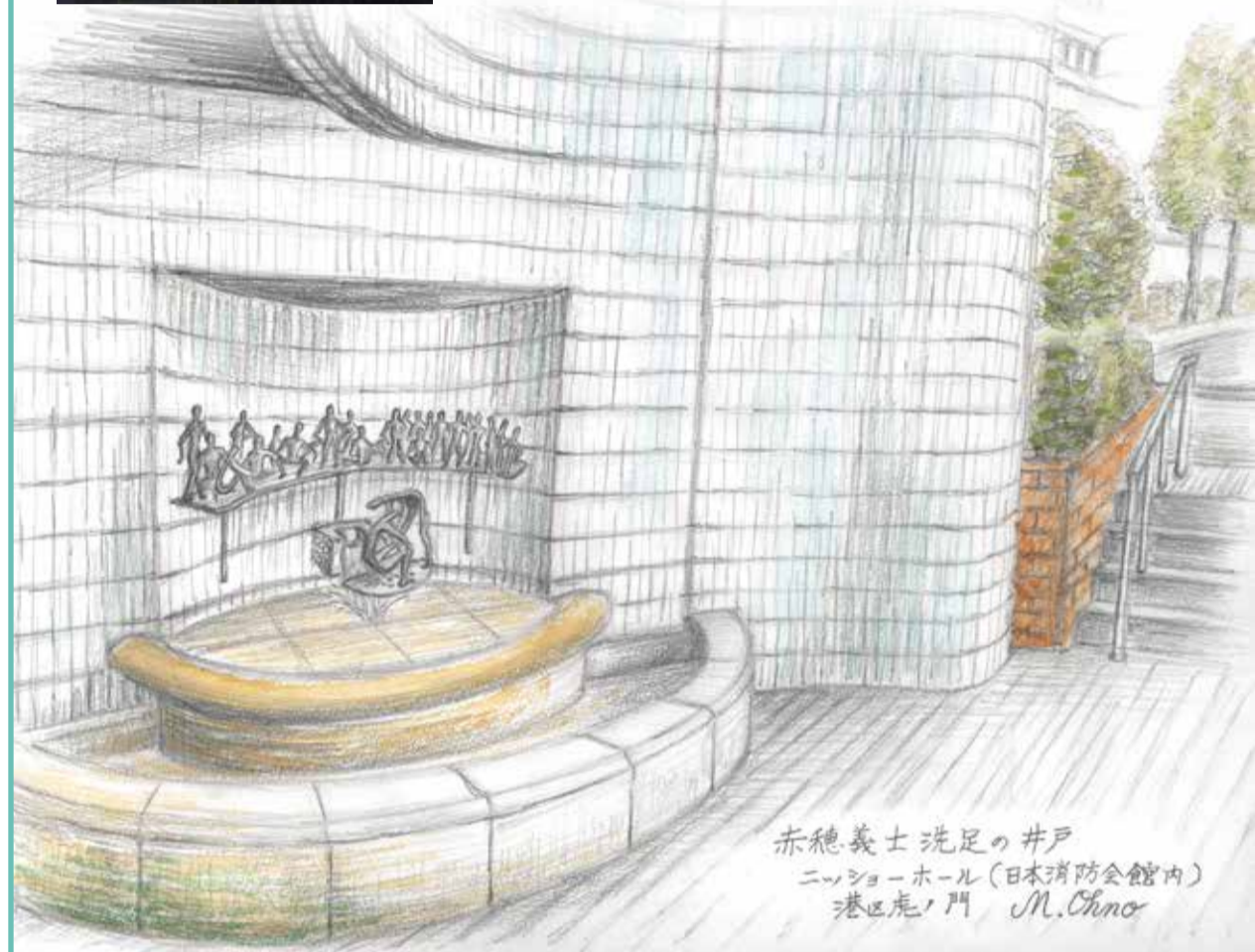
芝地区いきいきプラザ3館では、身体をケアする数々のサービスを提供。さらに心のケアや仲間づくりのための講座や教室、イベントなどを実施しています。それぞれ3館の特徴を生かした催しとなっています。お近くのいきいきプラザに、ぜひおいでください。

三田いきいきプラザ
芝4-1-17 TEL 03-3452-9421
神明いきいきプラザ(プラザ神明)
浜松町1-6-7 TEL 03-3436-2500
虎ノ門いきいきプラザ(とらトピア)
虎ノ門1-21-10 TEL 03-3539-2941



●写真・資料提供 指定管理者：百葉の会・東急コミュニティー共同事業体

芝にある風景



赤穂義士洗足の井戸
ニッショーホール(日本消防会館内)
港区虎ノ門 M.Chino

絵・文：大野 正晴

赤穂義士洗足の井戸

12月は忠臣蔵の季節です。今回は虎ノ門のニッショーホール(日本消防会館)にある赤穂義士洗足の井戸のモニュメントです。

記念碑のプレートには次のことが述べられています。
「元禄のころ、このあたりに大目付、仙石伯耆守の屋敷があった。大目付とは老中の配下にあつて政務を監督し、諸大名の行動を監察した役職である。元禄十五年(1702)十二月十五日朝、大石良雄以下四十七名の赤穂浪士が本所吉良邸に討入り、主君浅野内匠頭の無念を晴らし武士の本懐を遂げた。吉良邸を引き上げて芝泉岳寺にある主君の墓前に向かう途中、大石良雄は部下二名の者を仙石伯耆守邸に差し向け自首させた。その際に両名の義士は邸内の井戸で洗足して座敷にあがったと言う。」

この史実をもとにこの井戸を作り、後世にあまねく伝承するものである。
昭和五十六年十一月吉日 財団法人 日本消防協会

このニッショーホールの玄関ロビーの横には、「江戸いろは四十八組」といふミニチュアが展示されていますが、とても壮観です。

「芝で生まれ、神田で育ち、今じゃいなせな纏持ち」これが江戸っ子気質です。粋でいなせな風情と心意気は大切にしたいものと思います。



昭和26年(1951)生まれ。39年間、新橋タクト金物株式会社に勤務。
「新橋で生まれ育ちましたので、特に港区、芝地区には愛着を持っています。この地域には歴史的な名跡が多いうえに、新名所もあり、興味深いエリアです。これからも芝地区の「心を感じる」素敵な風景を見出して描いていきたいです」

「出張!なんでも鑑定団」が、芝学園にやってきた!! ~芝学園同窓会第50回大会記念イベント~

平成29年(2017)11月5日、芝学園講堂にて、芝学園同窓会第50回大会記念イベント、「出張!なんでも鑑定団 IN 芝公園」のテレビ公開収録が開催されました!
テレビ東京系のバラエティー番組「開運!なんでも鑑定団」の人気のコーナーが芝学園にやってきたのです!
コーナーでは地域の依頼人たちによるさまざまな「お宝」を各分野の専門家たちが次々と鑑定していきます。鑑定後のお値打ち結果発表に、思わず息を呑む方も多いのではないのでしょうか。
学校法人芝学園は明治39年(1906)、浄土宗増上寺の僧侶を養成する浄土宗第一教区宗学教校

として、広く一般師弟の教育にも門戸を開放し、私立芝中学校として発足しました。現在の芝学園(芝中学校・芝高等学校)は、創立111年の歴史を持つ私立の中高一貫教育の男子校。芝学園同窓会は大正元年(1912)に創立され、今年で105年を迎えます。校訓「遵法自治」の精神は同窓生の行動の指針となっています。
芝学園同窓会第50回大会記念の実行委員長である澤井均さんにお話を伺いました。
「番組に出演されている中島誠之助先生は、芝学園(51回)同窓生でございます。実行委員会では一年前から同窓会50回大会の目玉として鑑定団をお招きできないかと計画をしていました。また諸先輩方や多くの関係者さまのお力添えで、近隣住民の皆さまも大勢、会場へお呼びすることができ、1000名以上の方に観覧頂きました。感謝申し上げます。
番組収録前、講堂上で15代校長の武藤道郎先生から挨拶があり、「学校創立・記念事業として皆さんのご協力で建設されたこの「芝学園講堂」こそ、芝学園の「大事なお宝」です」と述べられると、母校を思う気持ちがひとつになり、会場は大きな歓声とあたたかい拍手にあふれ、同窓会大



講堂ステージではもうすぐ本番が始まります!



15代校長を務める武藤道郎先生

会のスタートにふさわしい晴れやかな場面となりました。
「出張!なんでも鑑定団IN芝公園」は、今回もワクワクドキドキ、そして笑いでいっぱいです!
番組は平成30年(2018)3月6日に放送予定です。是非とも、ご覧下さい!

取材・文・写真：桑原 庸嘉子

Information

学校法人芝学園 芝中学校・芝高等学校
芝公園 3-5-37
<http://www.shiba.ac.jp/>

ご存知、中島誠之助先生と実行委員長の澤井均さん

写真協力/芝学園同窓会実行委員会



新橋SL広場が大海原に! 今年は「七つの海を巡る旅」がテーマ!

11月16日18時、新橋SL広場に集まった地元の人、仕事帰りの人などがカウントダウンを行うとともに、SL「C11」が汽笛を鳴らし、イルミネーションが点灯しました。

このイベントは愛宕一之部連合町会が主催し、毎年地元町会長らが事前に会議を重ね、通る人が楽しめるようにと工夫がされています。今年のイルミネーションは、SLアドベンチャーシリーズ第5弾。「日本の四季を巡る旅」「世界のクリスマスを巡る旅」「世界の祭りを巡る旅」「銀河を巡る旅」に続いて「七つの海を巡る旅」がテーマです。

区がいわき市と「災害時における相互協力協定」を締結したことをきっかけとして、平成25年度から点灯式ではいわき市の復興支援を目的に毎年物産展を併

設しています。今年は北九州市と前橋市も参加し地酒をはじめ、できたて熱々の特産品が数多く用意されました。また、ステージでは「スバリゾートハワイアンズ」のファイアーナイフダンスなど賑やかなショーが催され、来場者は会場中央に用意されたテーブルを囲み、イルミネーションとショーを楽しみながら各地の特産品を味わっていました。

ここでのもう一つの目玉が、チャリティーワインです。愛宕一之部連合町会では、同イベントに合わせ、募金に協力してくれた方にワインを提供する企画を行っています。募金の呼びかけを行ったのは、地元町会長や新橋こいち祭で入賞したゆかた美人。寄せられた募金は後日、港区社会福祉協議会に寄付されました。



新橋SL広場でのイルミネーションは、5分おきにオリジナル音楽とシンクロしたパフォーマンスを繰り広げ、冬の新橋を盛り上げます。SLの中にサンタがいるのは12月25日(月)までです。地元の方々のおたのしみがいっぱい詰まった「THE新橋」なイルミネーションをぜひご覧になってはいかがでしょうか。

写真協力：愛宕一之部連合町会事務局
文：芝地区総会支所協働推進課

Information

新橋 SL 広場 (新橋西口広場)
新橋 2-7
点灯期間：11月16日(木)～1月19日(金)
点灯時間：午後5時～11時

旧町名由来板 をご存知ですか?

大正10年(1921)発行の「東京市芝区図」(東京通信局発行)を参照すると、芝地区には、当時74の町名がありました。その後、住居表示実施などによる町名変更があり、現在使われている町名になりました。その74の町名の由来を記した旧町名由来板を芝地区内20か所に設置しています。

今回は「オランダヒルズ」(芝地区MAP⑨)に設置されている旧町名由来板から、4つの町名を紹介します。

西久保広町

芝公園に南接し、神谷町と西久保巴町に北接した町域です。明治5年(1872)、西久保同朋町、芝富山町、青松寺門前、青龍寺門前を併せて西久保広町と唱えました。町の南にある増上寺涅槃門より西久保通り(虎の門、飯倉間の道路)に出る所に広小路と称する場所があったことが町名の由来です。

今回紹介した旧町名由来板の設置場所 **オランダヒルズ森タワー 虎ノ門5-11-11**

愛宕町

愛宕神社があることから、愛宕町と称されました。愛宕山や含海山の丘陵がこの町の大部分を占め、その東山麓に沿って、平坦な市街が横たわっていました。明治5年(1872)、愛宕社地および青松寺、清岸寺、伝光院、考壽院、吟宗院、円福寺、金剛院、普賢院、満蔵院、鏡照院、薬師寺、王蔵院、良久院、真福寺等の寺地その他幕士の宅地を併せて愛宕町一丁目としました。今も愛宕神社や青松寺をはじめ、諸寺が残っています。

神谷町

神谷町は、徳川家康が三河にいた時代、その御手廻り中間を勤めていた者が、天正18年(1590)家康と共に江戸に入国し、慶長19年(1614)、その中間の組頭に西久保に組屋敷を与えたことに始まります。当初、西久保田町と称していましたが、元禄9年(1696)、組屋敷は町屋敷となって、同時に本国の神谷村の名に因んで神谷町と称するようになりました。明治5年(1872)、出石藩仙石正國邸および付近の寺地を合併しました。

西久保八幡町

もとは大養寺および西久保八幡神社の境内でした。いつの頃からか、大養寺の前に町屋が開け、また元文2年(1737)には八幡宮別当普門院境内に町屋ができて、両者とも門前町となりました。明治2年(1869)、両門前町および幕士の宅地を合併して、町内に八幡神社があったことから、西久保八幡町と名付けました。明治5年(1872)、さらに付近の社寺地を合併しました。



平成30年度 港区民交通傷害保険に加入しましょう

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、車両による交通事故でケガをしたときに、入院や通院治療日数と通院治療期間に応じて保険金をお支払いする保険制度です。

また、自転車または身体障害者用車いすの所有・使用・管理に起因して、他人にケガを負わせたり、他人の財物を壊したりしたこと等によって発生した、法律上の損害賠償を補償する「自転車賠償責任プラン」も併せて募集します。

今回から「自転車賠償責任プラン」は保険料を改定し、補償内容を充実させます。自転車事故でも被害の大きさにより多額の損害賠償金を支払わなくてはならない場合もあります。いざというときのために「自転車賠償責任プラン」も併せてご加入されることをお勧めします。

詳しくは、各総合支所で配布するパンフレットまたは港区ホームページをご覧ください。

※自転車賠償責任プランのみに加入することはできません。

■概要

- 加入対象者 平成30年4月1日時点で港区に住所がある人
- 保険期間 平成30年4月1日午前0時～平成31年3月31日午後12時
- 加入方法 個人加入の場合

各総合支所協働推進課協働推進係または区内金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・ゆうちょ銀行・郵便局）で配布する加入申込書に記入のうえ、保険料を添えてお申込みください。

10人以上の団体加入の場合

各総合支所協働推進課協働推進係で、団体加入申込書に記入のうえ、人数分の保険料を添えてお申込みください。

●加入受付 2月1日(木)～3月30日(金)

※金融機関での申込みは3月20日(火)までです。申込期間外の加入はできません。

コースの種類と保険料■下表の6つのコースから1つを選んで加入してください。

※複数のコースへの加入はできません。

■コースの種類と保険料

コース	補償内容	年額保険料	最高保険金額
A	区民交通傷害Aコース	1,000円	150万円(交通傷害)
B	区民交通傷害Bコース	1,700円	350万円(交通傷害)
C	区民交通傷害Cコース	2,900円	600万円(交通傷害)
AJ	区民交通傷害Aコース+自転車賠償プラン	1,400円	150万円(交通傷害)+1億円(自転車賠償)
BJ	区民交通傷害Bコース+自転車賠償プラン	2,100円	350万円(交通傷害)+1億円(自転車賠償)
CJ	区民交通傷害Cコース+自転車賠償プラン	3,300円	600万円(交通傷害)+1億円(自転車賠償)

引受保険会社

このご案内は概要を説明したものです。詳しくは、損害保険ジャパン日本興亜(株)東京公務開発部営業開発課(新宿区西新宿1-26-1)までお問い合わせください。
TEL 03-3349-9666

お問い合わせ

芝地区総合支所協働推進課協働推進係
TEL 03-3578-3123

SJNK17-13714 平成29年11月1日作成

町会・自治会トピックス

いろはにほへっと芝まつり～北四国町会～

10月15日(日)に芝の家主催の「いろはにほへっと芝まつり」に北四国町会が共催で参加しました。芝の家は芝地区総合支所の地域事業「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点。今年でこのお祭りも9回目です。

当日はあいにくの雨模様でしたが、雨天バージョンでお祭り決行！屋内をメインにさまざまなプログラムが行われました。おもちゃ作りや色々な楽器で演奏を楽しむ方で大変賑わっていました。その中でも北四国町会は屋台でやきそばを提供してくれました。お祭りに来場した方みなさんが、会長お手製のやきそばをおいしそうに食べている姿が印象的でした。

写真協力：芝の家 文：芝地区総合支所協働推進課



やきそばを作る杉山光敬会長(右)。会長は芝の家でレコードコンサートを開いたり、ご自宅の花を届けてくださったりしています



告知

芝会議地域コミュニティ部会 イベント

芝を楽しむ会

芝でお酒が!?

平成30年3月3日(土)に芝地区の醸造酒を「知る」「見る」イベントを予定しています。時間や定員、応募方法など詳しくは2月頃「広報みなと」でお知らせします！

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご活用ください。

芝地区MAP

1～20は旧町名由来の設置場所

- 1 三田いきいきプラザ → P4・5
- 2 三田いきいきプラザ → P4・5
- 3 虎ノ門いきいきプラザ → P4・5
- 4 赤穂義士洗足の井戸 → P6
- 5 新橋SL広場 → P7
- 6 北四国町会 → P8
- 7 三田いきいきプラザ → P4・5
- 8 三田いきいきプラザ → P4・5
- 9 三田いきいきプラザ → P4・5
- 10 三田いきいきプラザ → P4・5
- 11 三田いきいきプラザ → P4・5
- 12 三田いきいきプラザ → P4・5
- 13 三田いきいきプラザ → P4・5
- 14 三田いきいきプラザ → P4・5
- 15 三田いきいきプラザ → P4・5
- 16 三田いきいきプラザ → P4・5
- 17 三田いきいきプラザ → P4・5
- 18 三田いきいきプラザ → P4・5
- 19 三田いきいきプラザ → P4・5
- 20 三田いきいきプラザ → P4・5

買い物するなら地元の商店街で

Going shopping? Visit our local shopping streets.

- 本誌の制作には以下の編集委員が参加しています
伊藤早苗/菊池弓可/桑原庸嘉子/柴崎賢一/柴崎郁子/田岡恵美/竹田和行/千葉みな子/中原たづ子/早川由紀/町田明夫/森明/森田友子/米原剛(五十音順 敬称略)
- 今後の発行スケジュールは次の通りです。
H30.3(第46号)、H30.6(第47号)、H30.9(第48号)、H30.12(第49号) ※各号発行月の20日頃

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設などで配布しています。

港区芝地区総合支所協働推進課

〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号(港区役所1階)
TEL 03-3578-3192 FAX 03-3578-3180

ホームページ

<http://www.city.minato.tokyo.jp/>